

こどもが自ら未来を切り拓く学校教育の充実（青梅市教育大綱）

学校の教育目標

○努力
自ら学ぶ意欲をもち、粘り強く取り組み、最後までやり抜く力を育てる
○創造
主体的に課題に気づき、解決しようとする力を育てる
○協調
自分と周囲の人を大切にし、協力してよりよい社会を築く態度を育てる

目指す学校像

- ① 確かな学力の定着と向上に努める学校
- ② 豊かな心の育成に努める学校
- ③ 夢や希望をもち、よりよい社会を創る意欲を育てる学校
- ④ 安全で清潔な学校
- ⑤ 生徒・家庭・地域から信頼される学校

目指す生徒像

- ① 知（確かな学力）
 - ・主体的に学び、考え、行動する生徒
 - ・国際社会で生きる力を身に付ける生徒
- ② 徳（豊かな人間性）
 - ・偏見や差別をなくし、自他や自然を大切にする生徒
 - ・規範意識をもって行動する生徒
- ③ 体（健やかな心と体）
 - ・心身ともに健康でたくましく生活する生徒
 - ・すすんで体を動かし、体力を高める生徒

目指す教師像

- 生徒を深く正しく理解する教師（信頼関係）
- 生徒と感動を共にする教師（共感）
- 生徒と活動を共にする教師（師弟同行）

学校経営の重点

学習指導力の向上

人権教育・道徳教育
の充実

健康・体力づくり
の充実

学校・地域、関係機関
等の連携

特別支援教育の理解
と充実

社会の変化に対応
した教育

地域の願い

学校運営協議会

家庭の願い

具体的な取り組み

学習指導力の向上	人権教育・道徳教育の充実	健康・体力づくりの充実
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を高め、さらに応用力を伸ばしながら、個性や創造力をもった人間性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いを尊重しいじめをなくすために、思いやりやルールを守る心をもった人を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や体力への意識を高め、健康を保ち、よりよくする力をもった人を育てる。
<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上のため、学力調査結果に基づき授業改善と研究授業を推進。 ○思考力・判断力・表現力を育成するため、全教科で言語活動を強化。 ○数学は習熟度別指導を行い、反復学習で自ら課題解決する意欲を育成。 ○TOKYOGLOBAL GATEWAY を活用し、英語への興味を引き出し、外国人との交流の場を提供。 ○ESATJ 対応のスピーキング力向上を目指し、パフォーマンステストで4技能のバランスを強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳教育は指針に基づき計画的に実施し、多面的に考え自己の生き方を深める力を育成。 ◎「SOS の出し方教育」や「命の週間」を通して、命の大切さと自己肯定感を育成。 ◎学校行事等を通して、感動する心と豊かな感性を育成。 ○学校生活全体で主体性や人間関係形成力を育て、集団への帰属意識の向上。 ○いじめ防止方針に基づき、未然防止と早期発見・解決に組織的な対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力テストの結果を活用し、基礎体力の向上と生涯スポーツの資質を育成。 ○生活リズムの確立と健康管理ができる生徒を育成。 ○命・がん・性・食・薬物防止などの横断的な健康教育を充実。 ○オリンピック・パラリンピックの理念を生かし、バランスの取れた生徒を育成。 ○ストレスマネジメントや友人関係、いじめ防止の指導。 ○心理カウンセリングの活用や自己肯定感を高める授業の実施。

学校・地域、関係機関等の連携	特別支援教育の理解と充実	社会の変化に対応した教育
<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでは対応しきれない課題に対し、地域や関係機関で連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害や学習や生活に特別な配慮が必要な生徒一人一人に合わせ適切に支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代や社会の状況の変化に合わせ、教育内容や方法を柔軟に変化させ支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ◎小中一貫の取組（挨拶運動・家庭学習ノート・児童・生徒会交流）で望ましい習慣を定着。 ◎地域と協働し、信頼される学校づくりを推進。 ○警察や消防署と連携し、防災訓練や交通安全教室を実施。 ○職業体験や出前授業を提供し、将来の職業に対する理解を深化。 ○「共に生きる」をテーマにSDGsの視点を取り入れ、環境・福祉・地域理解の学習を推進。 ○主体的な集団活動や地域貢献活動を通して、社会参画力を育成。 ○職場訪問・体験を通して、主体的に将来を考える態度を育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎校内委員会を中心に、支援が必要な生徒の把握と支援方針を共有。 ◎特別支援教育による ICT 活用などの課題解決に向けた研究・研修の推進。 ○関係機関と連携し、組織的に特別支援の充実と指導方法を共有。 ○個別の支援計画を作成し、ICTも活用した指導の工夫・改善。 ○交流・共同学習を通して協力する態度の育成。 ○副籍制度を活用し、特別支援学校との連携を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫教育を推進し、指導方法や学習進度の連携を強化。 ○学校評価（自己・生徒・保護者・関係者）を実施し、改善に活用。 ○小中を見通した一貫性のあるキャリア教育の推進。 ○地域人材や資源を活用し、地域教育・環境教育を推進。 ○ライフワークバランスにより、1か月在校時間45時間以上0の確立。 ○SNS を安全・効果的に活用する方法を理解し、情報の信頼性を判断する力の育成。 ○学校教育活動支援員等の配置や関係機関との連携により、不登校対応や個別支援の充実。